

児童・生徒連携のための発達支持的生徒指導に関する研究¹

—紙芝居技法（描画物語技法）による教員研修を通して—

阿 部 彩

(大阪府教育庁)

紙芝居技法（大辻, 2007）は描画と物語作成を主軸とする描画物語技法（心理教育）であり、個人にも集団にも適用できる。個人適用の場合の効果としては対象者自身の自我機能の強化が期待できる。その結果、個人は自信を獲得し集団適応が促進される。また、集団に適用した場合は集団間の連携が促進強化される。そのことから、学級内のいじめ及び学級崩壊の軽減はもちろんのこと、通常の学級内の児童間の人間関係を適正に促進強化することに有効であることが期待できる。また、生徒指導提要（2023）によれば、現時点において生徒指導の中軸として教育相談（カウンセリング）が位置付けられており、カウンセリングの一手法としての本法もその特質から当然その中に組み込まれると言える。そこで、今回この紙芝居技法を教員対象として実施し、教員にこの方法を体験修得させ、ひいては教員が自身の担任学級児童に実施可能とすることを狙いとして教員対象の研修をおこなった。本研究では、その研修結果（受講者との議論、観察、アンケート結果他）にもとづき、数個の視点から本法の児童連携促進強化法としての意義について検討した。

キーワード：紙芝居技法，発達支持的生徒指導，児童・生徒連携，教員研修，心理教育

1. はじめに

紙芝居技法（大辻, 2007）は描画と物語作成を主軸とする描画物語技法（心理教育）であり、個人にも集団にも適用できる。

個人適用の場合の効果としては対象者自身の自我機能の強化が期待できる。その結果、個人は自信を獲得し集団適応が促進される（古川・阿部, 2010; 大辻・上川, 2009; 佐藤・阿部, 2022; 内海, 2011）。大辻・上川（2009）ではコミュニケーションが促進され、対人関係にまつわる不安、不信、緊張などの心理的問題が改善されたと報告されている。古川・阿部（2010）によると、他者への暴力や暴言が減少し、自己のアグレッションコントロールが可能となる。つまり、攻撃性を建設的な方向で表出することが可能となると指摘している。さらに、内海（2011）によると、紙芝居技法共同制作法によりクライアントの自我機能の回復や促進及びコミュニケー

ションの促進がなされるという知見を得た。また、紙芝居技法相互制作法を主要なコミュニケーションツールとしてセラピストに対する同一視が生じたことにより適応的な行動が見られるようになった（佐藤・阿部, 2022; 2025）。

集団に適用した場合は集団間の連携が促進強化される（阿部, 2011; 阿部・大辻, 2015; 阿部・佐藤, 2022; 古川, 2012; 川崎・阿部・大辻, 2012; 大辻・上川, 2013a; 2013b; 内海, 2010）。高校生サッカー部に紙芝居技法連結法を実施したところチームの雰囲気、連携力及び勝負力が向上したと述べている（内海, 2010）。同様に中学生ラグビー部に紙芝居技法連結法を実施したところ他者不信の改善が有意に認められた（川崎・阿部・大辻, 2012）。さらに、学級崩壊を呈している小学生に紙芝居技法連結法を実施したところ、学級内のいじめの軽減、学級崩壊の軽減が見られた（大辻・上川, 2013a; 2013b）。

なお、紙芝居技法連結法を教員研修で実施したところ、実施者であるスクールカウンセラー（以下 SC）との連携力が高まり生徒対応の相談が増加した（古川, 2012）。また、別の教員研修では、児童に良い方法だけでなく教員間連携/同僚性が高まり教員にとっても良い研修方法であると参加者の教員が述べている（阿部, 2022）。このことから、紙芝居技法は児童・生徒間及び教員間の人間関係を適正に促進強化することに有効であることが期待できる。

紙芝居技法は、米国小学校の児童虐待に関する予防教育にヒントを得て考案した描画技法（大辻, 2007）であり、手順一番目のなぐり描き技法はケイン（The Scribble, Cane F., 1951）にヒントを得て考案されたものである。紙芝居技法のねらいは、他者との絆の形成、より良い人間関係づくり、さらにセルフエスティームの向上にある。その方法は、まず第一に、目を閉じて用紙に 4B の鉛筆でなぐり描きを行う（scribble）。次に、目を開けて、なぐり描きから見えた形を形成する（shaping）。この時、消しゴムを使用することができる。さらに、色を塗る（coloring）。色を塗った後に、用紙の裏面に絵のタイトルと絵の簡単な説明を記入する（naming）。上記方法を 3 回実施する。その後、3 枚の絵で物語を作成（タイトルも作成）する（story-making）。連結法はグループメンバーの絵をつなげて物語を作成する。最後に発表（紙芝居実施）を行う（story-telling）。

紙芝居技法の種類は、基本法（個人が制作した絵をつなげて紙芝居を作成し物語を発表する）に始まり、連結法（個人で制作した絵をグループ全員でつなげて紙芝居を作成し物語を発表する）、交換法（互いに制作した絵を交換して紙芝居を作成し物語を発表する）、共同制作法（単独制作が困難な部分を共同制作し紙芝居を作成し物語を発表する）、相互制作法（互いに絵を描き紙芝居を作成し物語を発表する）等、主に現在 5 種の実施方法がある。また、適用範囲は個人場面（カウンセリング場面、教育相談場面等）と集団場面（クラス、クラブ、教員研修等）がある。

現在の生徒指導提要（2023）における生徒指導は旧来の生徒指導提要（2010）における生徒指導を発展させた 4 層構造からなる。以前は、①成長を促す指導、②予防的指導、③課題解決的指導の 3 層構造であったが、現在は①の成長を促す指導を 2 点に分類し、新たに第 1 層として「発達支持的生徒指導」を設定した。これにより、旧来の予防的指導が発達支持的生徒指導と課題未然防止教育の 2 層になったことで層的厚みが増し予防的対応が強調されたといえる。この発展は予防的指導を充実させることを目的としていると考えられる。つまり、課題発見よりもむしろ課題予防に力点を置いたところが特質であると理解できる。

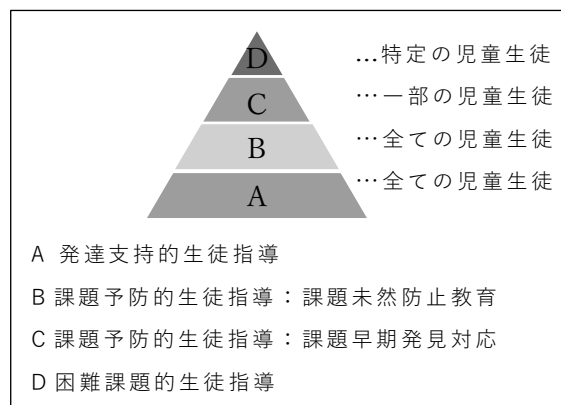


図1 生徒指導の4層構造：指導内容とその対象¹
（生徒指導提要, 2023+筆者加筆）

生徒指導提要（2023）によれば、発達支持的生徒指導は、①児童生徒の自発的主体性、②個性の伸長、③社会性の発達を教職員が支え働きかけることを重視しており、生徒指導の基盤をなすものである。本研究ではこのことをふまえて、特に紙芝居技法との関連で具体的な課題を追求することにする。

さらに生徒指導提要（2023）では発達支持的生徒指導について具体的な内容として社会的資質・能力の育成他が述べられている。なお、社会的資質・能力の育成については主に次の 10 項目が指摘されている。①自己理解力、②自己効力感、③コミュニケーション力、④他者理解力、⑤思いやり、⑥共感性、⑦人間関係形成力、⑧

協働性、⑨目標達成力、⑩課題解決力等々である。また、これらの課題達成については SC 等との多職種連携が重要かつ不可避であることが指摘されている。

さらに生徒指導提要(2023)では発達支持的生徒指導は個と集団への働きかけ及び学習指導と関連付けて行うことが重要であると指摘されていることから、心理教育として紙芝居技法を教員研修で実施することの意義は大きいものといえよう。

紙芝居技法は発達支持的生徒指導を具体的にすすめる手法の一つとして有効であると考えられる。また、生徒指導提要(2023)によれば、現時点において生徒指導の中軸として教育相談(カウンセリング)が位置付けられており、カウンセリングの一手法としての本法もその特質から当然その中に組み込まれると言える。

そこで、今回、紙芝居技法の体験修得を目的とした教員研修を実施した。本研究では、その研修結果(受講者との議論、観察、アンケート結果他)にもとづき、本法の発達支持的生徒指導における児童生徒の連携を促進するための方法としての意義について検討したい。

2. 方法

(1) 対象

本研究では公立 A 小学校教員 31 名及び公立 B 小学校教員 32 名、計 63 名を研究対象として紙芝居技法の体験学習を実施した。その目的は対象校児童のコミュニケーション力および自己肯定感をアップさせることにある。そのために教員が実施できる方法を体験学習することをねらいとして本研修をおこなった。

なお、A・B 両校とも紙芝居技法の教員研修はこれまで未実施である。B 小学校については SC 主体にすでに教員と SC の 2 人組で 9 クラスの児童に実施済みである。

(2) 手続

1) 紙芝居技法の実施手順

- ① 準備物/1 人当たり:A4 サイズ上質紙 3 枚・4B 鉛筆・消しゴム・色鉛筆・クレヨン・ク

レパス

- ② 実施手順<基本法及び連結法>
- a. 目を閉じて 4 B の鉛筆でなぐり描き
 - b. 目を開けてなぐり描きから見えた形を形成する(消しゴムの使用可能)
 - c. 色を塗る
 - d. 方法①～③を 3 枚(3 回)実施
 - e. 3 枚の絵を使って物語を作成
 - * 基本法は個人が作成したもの 3 枚を使用して物語を作成
 - * 連結法は 3 枚のうち 1 枚を使用してグループ全員の絵を 1 枚ずつ連結使用して物語を作成
 - f. 物語のタイトルを作成
 - g. 発表する

2) 研修の実施手順

① A 小学校

- a. 人権研修で紙芝居技法(連結法)を 1 時間程度体験学習実施(各グループ 4～5 名)
- b. 実施後、研修受講者に無記名、自由記述式による感想(振り返りシート)実施
- c. 研修実施後、研究のために紙芝居技法の描画提出を依頼。なお、その際、班構成員全員が協力可能な班は描画を提出していただけるとありがたい旨をアナウンスした。

② B 小学校

- a. 生徒指導研修で実施。まず、生徒指導担当及び筆者で実施した 5 年生 1 クラスに対する紙芝居技法実施時のビデオ映像を映しながら、担任及び生徒指導担当者が実施時の児童の様子及び実施の感想を発表(10 分程度)
- b. 紙芝居技法(連結法)を 1 時間程度体験学習実施(各グループ 4～5 名)
- c. 実施後、研修受講者に無記名、自由記述式による感想(振り返りシート)実施
- d. A 小学校と同様に描画提出の協力を求めた。

(3) 分析法

分析のためのデータの集積は観察記録及び感想(振り返りシート)による。集積したデータ

一は臨床心理士3名で分類し、カイ二乗検定で統計処理を行った。

（4）データ使用の許可

本研究のために使用したアンケート及び描画等の基礎データは参加者並びに校長の了解のもと公表許可を得ており、また個人情報に関する倫理規定に沿ったものである。

3. 結果

1) A 小学校

結果は次の通り。

描画提出者は26名、非提出者は5名。感想提出者19名、そのうち、感想肯定者18名、非肯定者1名、非提出者12名

感想を3視点（自己に有効・児童に有効・教員間に有効）で複数分類した。

A 自己にとって有効 4名

B 児童にとって有効 16名

C 教員間にとって有効 6名

$$\chi^2(1) = 15.211 \quad p < .01$$

カイ二乗検定の結果、紙芝居技法実施における感想肯定者は非感想肯定者に比べて有意に高い。

2) B 小学校

描画提出者は30名、非提出者は2名（別件のため途中退出）。感想提出者26名、そのうち、感想肯定者26名、非肯定者0名、非提出者6名。

感想を3視点（自己に有効・児童に有効・教員間に有効）で複数分類した。

A 自己にとって有効 21名

B 児童にとって有効 18名

C 教員間にとって有効 12名

$$\chi^2(1) = 26.000, \quad p < .01$$

カイ二乗検定の結果、紙芝居技法実施における感想肯定者は非感想肯定者に比べて有意に高い。

結果の図表については本校考察の後に掲載する。

4. 考察

今回、児童・生徒間連携のための発達支持的

生徒指導に関する研究として、紙芝居技法（描画物語技法）による教員研修を通して得られたデータに基づいてその意義を検討した結果、下記に述べる知見と新たな問題意識が明確になった。

研究結果から、A・B両小学校とも研修参加者における紙芝居技法の体験学習について肯定的な反応がみられた。教員は紙芝居技法の体験学習から、教員自身にとっても、教員間にとっても、また児童にとっても、いずれにとっても有効な研修であることが判明した。

(1) 参加者は体験学習をしたことで紙芝居技法が自己肯定感や児童生徒の連携力（仲間づくり・集団作り）の向上に有効であると考えた。

(2) 参加者・観察者とも教員間コミュニケーション/同僚性が高まったと実感している。すなわち紙芝居技法は教員間の連携力向上に寄与することから、教員にとって必要かつ重要な基礎の技術の一つを獲得したものと見える。

(3) 紙芝居技法の体験研修過程において、それぞれの個性が否定されずに尊重された体験をしたことから、紙芝居技法は実施の際に否定することなく実施可能な方法であるとの認識を得た。

つまり、発達支持的生徒指導を具体的に進める方法の一つとして紙芝居技法を教員研修で体験学習することは有効かつ有用であると考えられる。

5. 今後の課題

上記の研究結果から、紙芝居技法はチーム学校としての教員間連携や仲間づくり・集団づくりとしての児童間連携にも有効であることが示唆された。このことから、いじめ、暴力行為、不登校及び自死予防等に寄与するものと予想される。

さらに現在課題となっている、「幼保小の連携（文部科学省）」の一端としての有効性についても検討の余地があるものと考えられる。

資料1 A小学校研修

1. 描画の感想 (図1～4)

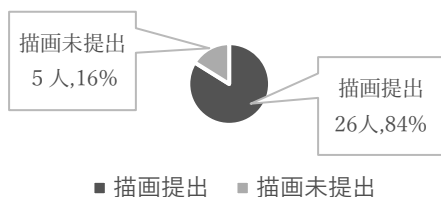


図1 A小学校描画提出

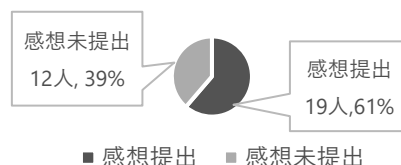


図2 A小学校感想提出

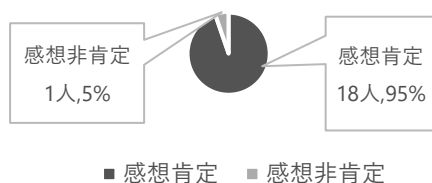


図3 A小学校感想内容分類

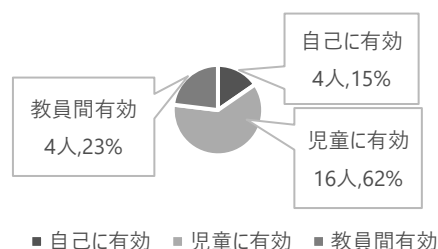


図4 A小学校肯定内容分類

2. 研修の感想 (表1)

表1 A小学校教員研修感想

カテゴリー	具体例
1. 自己に有効	① 面白かった。 ② 絵が苦手な自分でも苦なく取り組める。 ③ なぐり描きから始めるというところが斬新で、絵を描くことへの抵抗感を少なくする良い方法だと感じた。
2. 児童に有効	① 絵を描くことが苦手な子どもにも楽しみながら取り組めそうと思いました。 ② クラス作りに活かせると思う。 ③ クラスの輪に入れないうちも、これをする事で仲良くなるきっかけになればいいなと思いました。
3. 教員間に有効	① 楽しみながらチームで自然と対話生まれ、協力できる活動。 ② より良い人間関係づくり、絆の形成にも効果的な技法と実感。 ③ 話し合いの時に自然とグループの会話が生まれることに気がついた。

資料2 B小学校研修

1. 描画の感想（図5～8）



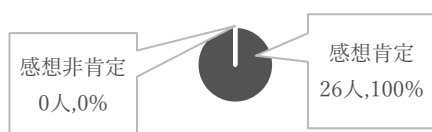
■ 描画提出 ■ 描画未提出

図5 B小学校描画提出



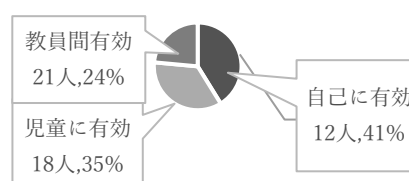
■ 感想提出 ■ 感想未提出

図6 B小学校感想提出



■ 感想肯定 ■ 感想非肯定

図7 B小学校感想内容分類



■ 自己に有効 ■ 児童に有効 ■ 教員間に有効

図8 B小学校肯定感想分類

2. 研修の感想（表2）

表2 B小学校教員研修感想例

カテゴリー	具体例
1. 自己に有効	① 紙芝居技法を実際に行ってみて、率直に面白かった。絵をかきときにその時の心情や心の状態が出されると感じた。 ② 子どもたちをなにも否定しなくてもよいのでその点も良いと感じた。間違いのないところがよいと思った。 ③ 殴り描きをすることで自分のエネルギーを紙にぶつけることができスッキリしました。
2. 児童に有効	① どのクラスでも行うことができる。勉強が得意苦手にかかわらず全員が参加できるところがよいところだと感じた。 ② 教師から見ても児童の新しい発見があるので、支援級するのは難しいかもしれませんが、やってみたいと思いました。 ③ 絵が苦手な児童も自由な発想で描くことができ、それを周りが受け入れてくれることはとても素敵だなと感じました。
3. 教員間に有効	① 自分では気づかないことにもグループで話すことで気づいたり、話を広げることができたりしておもしろいと思った。 ② 楽しさの中に、コミュニケーションをとったり、相手を認めていけるような自然なやりとりができて、よい技法である。 ③ 自然と会話が増え相手を認めることができる。楽しめた。

資料3 紙芝居技法事例

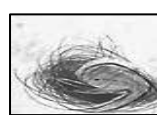
1. 紙芝居技法基本法事例（『クリスマス』＜7歳女児＞）



「カラフルでみずたまのいえ」 「カナダのクリスマスツリー」 「くるくるアイスクリーム」

『おはなし：クリスマス』：①にほんのほっかいどうのいえに、カナダのクリスマスツリーがありました。
 → ②たまちゃんがれいぞうこをあけると、たまちゃんの大ききな「くるくるアイスクリーム」がありました。
 → ③ひとりでたべてかんがえていました。「あーあ、そうだった」、きょうはたのしみなクリスマスでした。
 → ④またずーっとかんがえると、きょうは12月24日でした。「イエーイ、やったー」
 ⑤するとおかあさんがかえってきて、「きょうはうれしいね」と、2人はよろこんでねてしまいました。

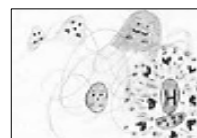
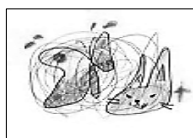
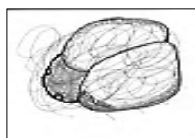
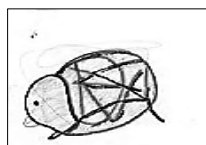
2. 紙芝居技法連結法事例（『弱肉強食』＜中学生男子ラグビー部＞）



「キノコ」 「鍵を飲みこんだぶた」 「ソースがでるヤツ（バジルレモン/トマト）」
 「へびとクラゲとウサギとかにとイカ」 「無題」 「へびっぼいやつ」

『おはなし：弱肉強食』：①しいたけがありました。→ ②それにぶたがトマトソースとレモンソースとバジルソースをかけて食べました。→ ③そこに恐竜が迫っていました。→④そして恐竜がぶたを食べようとしたとき、この人たちが助けようとしたが、ぶたと一緒に食べられてしまいました。

3. 紙芝居技法連結法事例（『おはなし』＜小学校教員＞）



「ボールとかわ」 「カメさん」 「セミ」 「ちょうをねらうネコ」「キノコをねらうおばけ Family」

『おはなし』：①ボールが川から流れてきました。→ ②カメが拾おうとしたけど拾えませんでした。「あちゃー。セミくんってー。」→ ③「ぼくは水が無理だからチョウさんってー！」→ ④「むりっ！わたし、今ネコさんにねらわれてて、逃げるのにせいいっぱいな。」→ ⑤「まてまて、我々は川の妖精。流れてくるのはボールだけではない。きのこも流れてくるではないか。幸せのきのこをみんなで追いかけるのちゃー！！」

注

1) 英文タイトルは以下の通り。

A Study on Developmentally Supportive
Guidance and Counseling Work for
Communication with Students
— through Teachers' Training by Kamishibai
(Drawing and Story Telling) Technique—

2) 生徒指導提要（2023）における生徒指導の4層構造の図に筆者が対象児童生徒を加筆した。

引用文献

1. 阿部彩（2011）。「実習 緊急支援のための紙芝居技法による予防教育」。『はばたき』。大阪府養護教諭研究会。
2. 阿部彩（2013）。「紙芝居技法における“見えない”抵抗（形成描画抵抗）について—高校女子ソフトボール部に試みたメンタルトレーニング事例を中心として—」。『日本描画テスト・描画療学会第23回大会発表』。
3. 阿部彩, 大辻隆夫（2015）。「小学校支援学級における紙芝居技法の試み」。『日本描画テスト・描画療学会第25回大会発表』。
4. 阿部彩（2020）。「ご存知ですか？紙芝居技法～心のもやもやをすっきり～」。『大阪市PTA たより第737号』。
5. 阿部彩（2022）。「紙芝居技法連結法の導入による教員連携の促進に関する研究①—いじめ被害救済を目的として—」。『日本描画テスト・描画療学会第31回大会発表』。
6. 阿部彩（2025）。「紙芝居技法における小1と小6の発達差に関する比較研究」。『日本描画テスト・描画療学会第34回大会発表』。
7. 古川心, 阿部彩.（2010）。「スクールカウンセリング場面における紙芝居技法の治療的意義—アグレッションコントロールに着目して—」。『日本描画テスト・描画療学会第20回大会発表』。
8. 古川心（2012）。「中学校における教育相談活動の促進のための紙芝居技法導入の効果と有用性」。『日本描画テスト・描画療学会第22回大会発表』。
9. 文部科学省（2010）。「生徒指導提要」。
10. 文部科学省（2023）。「生徒指導提要」。
11. 大辻隆夫（2007）。「紙芝居技法」。『京都女子大学心の相談室紀要』, 第3号。
12. 大辻隆夫, 阿部彩, 川崎理恵（2012）。「紙芝居技法による中学校ラグビー部におけるメンタルトレーニングの一試み」。『日本描画テスト・描画療学会第22回大会発表』。
13. 大辻隆夫, 上川貴子（2013b）。「集団療法としての紙芝居技法連結法における描画の変化と行動の変化—明暗の対比事例について—」。『日本精神衛生学会第29回大会発表』。
14. 佐藤紘代, 阿部彩（2022）。「紙芝居技法相互制作法に関する一研究—セラピストへの同一視過程を中心として—」。『日本描画テスト・描画療学会第31回大会発表』。
15. 佐藤紘代（2025）。「紙芝居技法から見た幼児の描画発達過程」。『日本描画テスト・描画療学会第34回大会発表』。
16. 上川貴子, 大辻隆夫（2009）。「スクールカウンセリング場面における紙芝居技法導入の試み」。『日本描画テスト・描画療学会第19回大会発表』。
17. 上川貴子, 大辻隆夫（2013a）。「学級崩壊が生じた小5クラスへの集団療法としての紙芝居技法連結法の試み」。『日本描画テスト・描画療学会第23回大会発表』。
18. 内海有弘（2010）。「高校野球サッカークラブにおけるメンタルトレーニングの一方法としての紙芝居技法導入の試み」。『日本描画テスト・描画療学会第20回大会発表』。
19. 内海有弘（2011）。「紙芝居技法における協同制作法の治療的意義」。『日本描画テスト・描画療学会第21回大会発表』。
20. 中央教育審議会初等中等教育分科会幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会（2023年）。

「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と
小学校教育の接続について」—幼保小の協
働による架け橋期の教育の充実—.文部科
学省

謝辞／付記

本論文を作成するにあたりご協力いただきました A 小学校および B 小学校教職員の皆様に感謝申し上げます。また、英文タイトルのサポートをいただいた **Richard Solomon, Ph.D.** に厚くお礼申し上げます。さらに、本論文を作成するにあたり、ご助言を賜りました前京都女子大学・大学院教授大辻隆夫先生に深謝申し上げます。